兵庫史を歩く No.41　（2023.11.23）

丹生山田の里をめぐる

丹生山田の里とは

神戸といえば六甲の山並みを背景にしたミナト神戸のおしゃれな街のイメージがあるが、六甲山地を越えた北には都会の雑踏が消えた山間には自然豊かな田園地帯が広がっている。

南の六甲山系と北の丹生・帝釈山系に挟まれたこの地には、古くから摂津と播磨、都と西国を結ぶ山田道（湯の山街道）が通っていた。表街道である山陽道から山ひとつ越えた山里を通るこの裏街道を旅人たちが往来し、多くの文物が運ばれた。そのため畿内の西端にもかかわらず、第一級の文化が流入した。そして辺境の地であることが幸いして、昔ながらの風土に育まれた伝統文化が大事に守られ続けてきた。

今日は豊かな自然風土に触れながら、そこに培われてきた歴史と文化を探っていきたい。

①栗花落の井（つゆのい）

今から 1200 年ほど前の奈良時代、淳仁天皇に仕えていた丹生山田の郡司の山田左衛門尉真勝の屋敷跡と伝えられている。庭の入口に兵庫県指定史跡「栗花落の井」の標識がある。

彼は奈良で宮仕えしていた時右大臣藤原豊成の娘白瀧姫に身分違いの恋をして苦しんだ。真勝の人柄に感心した淳仁天皇の仲介でやがて結婚した。二人は山田の里に住んで一人の子をもうけた。しかし、3 年後、都恋しさのあまり病気になり、雨の降り続く梅雨の季節に白瀧姫は亡くなった。悲しんだ真勝は邸の隅に弁財天の社を建て手厚く供養した。するとそこに泉が湧きだした。毎年 5 月栗の花が落ちる頃になると泉が湧きだし、秋になると止まった。どんな日照りでも涸れることがないという不思議な井戸で、旱魃の年などは多くの村人が救われたとか。これを伝え聞いた天皇は真勝に「栗花落」（つゆ）という姓を与えた。

この逸話は山田の里が奈良時代すでに都とかかわりがあったことを伝えている。

この井戸は阪神淡路大震災の後その自然の循環は乱れてしまっている。

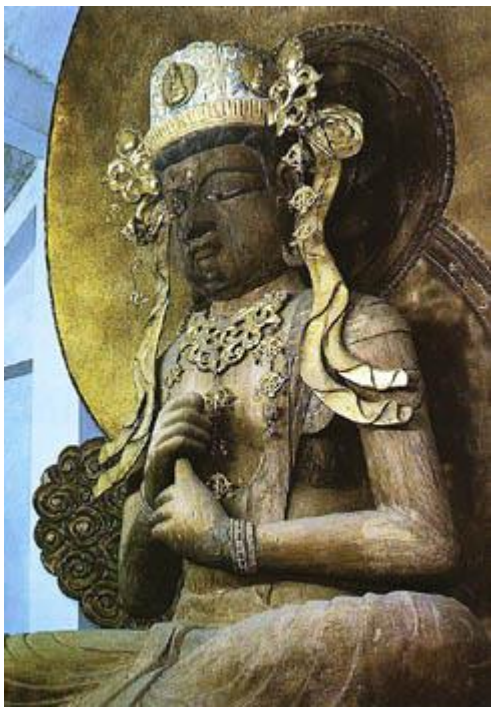
②新兵衛石

「お殿様、お願いの儀がございます！」
徳川 10 代将軍家治の時代（1770 年ごろ）旱魃で全国的な飢饉が起こった。その時巡見していた領主・下総国古河藩主土井大炊頭利厚（後に老中にまで昇進）の前に、大きな石の陰から飛び出して、年貢の軽減を直訴した少年があった。庄屋の息子、村上新兵衛、15 才。村は度重なる不作続きなのに年貢は高く、何度も代官に訴えたが聞き入れてもらえないため、最後の手段にでたのである。直訴は大罪であったが、新兵衛はその勇気を賞されて罪に問われず、村民も年貢を軽減された。
村民たちは新兵衛の勇気をたたえ、彼が隠れていた大石を感謝と喜びの記念として残した。

②無動寺

無動寺は高野山真言宗の寺で、開山の年は不明だが、寺伝では聖徳太子が物部氏討伐の戦勝祈願として、鞍作鳥（鳥仏師）に作らせた大日如来像を安置したことが起源といわれている。
近世には村の菩提寺で「福地」の地名の起源となった福寺の近くにあったが、その福寺が明治初年に廃寺となったので、その跡へ移転し、若王山地蔵院無動寺と改称した。

無動寺の魅力は何といっても紅葉と五体ある国の重要文化財に指定されている仏像である。
・大日如来坐像・・・・・本尊で檜の一木造。彩色されない素地像。高さ 278ｃｍ
平安後期の作といわれ、素朴で穏やかな表情をしている。



・釈迦如来坐像・・・・・向かって左手。檜の一木造で平安後期の作で、五体の中では最も古い。
・阿弥陀如来坐像・・・・・向かって右手。杉の一木造で、木目が美しい。

・不動明王坐像・・・・・手前中央。檜の寄木造りで平安時代後期の作。像高は約 84 Cm であるが、はるかに大きいものを感じさせる。

・十一面観音立像・・・・・唯一の立像。端正で気品に満ちた顔は一見して心を捉える美しさがある。

③若王子神社（にゃくおうじじんじゃ）

無動寺の本堂西側に建つ鳥居をくぐって、林の中の自然の巨石を利用した階段を上がるとある。無動寺の鎮守社として建てられたものであり若王子権現と呼ばれていたが、明治の神仏分離令で無動寺から分離した。

本殿は応永 15 年（1408）の再建で、規模は小さいが室町初期の神社建築の完全な遺構として重要文化財に指定されている。板葺き三間社流造の社殿で、現在は風雨を防ぐために鞘社に納められている。

④六條八幡神社

平安時代の長徳元年（995）に基澄法師が応神天皇を祀って「若宮八幡」と称したのが始まりといわれる。その後、山田庄を領していた六条判官（検非違使）の源為義が保安 4 年（1123）に京都六条の左女牛（さめうし）八幡宮を分霊合祀して、六條八幡と称したと伝わる。旧山田の 13 カ村にはそれぞれ鎮守社があったが、この神社はその総鎮守社であった。

本殿横に、境内の老杉に囲まれた美しい三重塔が聳え立つ。この塔は文正元年（1466）に地元の有力者である鷲尾綱貞によって建てられたものである。高さ 13mを越す均整のとれた姿で、檜皮葺の屋根を持ち、室町時代中期の建築様式をよく伝えている。国の重要文化財に指定されている。仏教建築である塔が神社にあるのは、かつての神仏習合の姿を伝えるものである。現存する神社の三重塔は、全国で 18 ケ所、県内では 3 ケ所といわれている。

ほかに境内には神戸市の名木に指定されている大イチョウがあり、爽やかな風に葉をそよがせている。

十月の第二日曜日には流鏑馬神事が行われる。近くの七社神社で儀式を行ってから、行列が六條八幡神社へ向かう。この行事は 600 年前から継承されているという。

⑤太陽と緑の道

六甲山を中心とした山麓から郊外を横断するハイキングのために神戸市が整備した自然歩道プロジェクト。昭和 47 年（1972）に整備完了し市民に利用されていたが、宅地や工業団地開発・阪神淡路大震災の影響により、一部寸断されていた。平成 23 年（2011）にルートを変更し再整備された。（現状　27 コース　総延長　175km）

⑥丹生宝庫

「丹生宝庫」と呼ばれる丹生神社宝物殿で、小さな資料館である。かつて山頂にあった明要寺に関する資料が収蔵されている。中でも目をひくのは室町時代の「丹生山明要寺参詣曼荼羅図」という大きな図で、伽藍が建ち並ぶ盛んであったころの寺の様子を知ることができる。ほかにも「当山景画大幅」（平清盛寄進)、「秀吉の寺領認可書状」などがあり、毎年５月５日の申祭にのみ公開される。

宝物殿のすぐ前から丹生山への表参道が続いている。その入口に室町時代のものという石の地蔵が置かれ、「丹生山廿五丁」と刻まれた丁石が建っている。

⑧つくはら湖

農業用水と水道用水の供給を目的として、志染川（別名山田川）を堰き止めて造られた呑吐（どんど）ダムの貯水池で、現在の神戸市北区山田町衝原から三木市志染町にまたがる。平成元年（1989）竣工。貯水量は東条湖の二倍以上といわれる。

湖畔にはサイクリング道兼遊歩道が整備されており、途中に三代目となる「BE　KOBE」のモニュメントが設置されている。

⑨箱木千年家

しばらく休館していたが、昨年５月 21 日より土日祝日のみ開館されている。

歴史と風格を感じる室町時代の住居で、現存する民家建築物の中では日本最古であり、国の重要文化財に指定されている。呑吐ダム建設で湖底に沈んでしまうため、70m離れた高台に移築された。

箱木家は古くからこの地の豪族であったと伝えられ、代々庄屋をつとめた家柄である。

（次回予告）　　**（2023.12.9）**

兵庫史を歩く　No.42　「東洋のシェイクスピア」門左衛門が眠る町へ

「近松の里」をめぐる